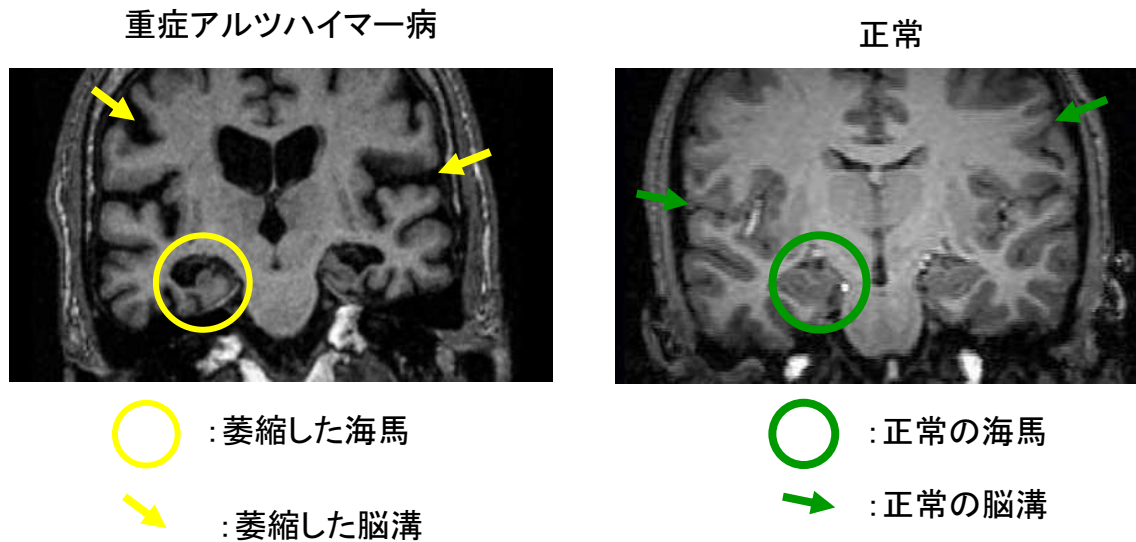


認知症検査について（新しい検査法 -VSRAD- の導入）

1. はじめに

国の統計では 65 歳以上の高齢者の 15%が認知症を発症しているとされていますが、この割合を滋賀県にあてはめると、約 44000 人の認知症の方がおられる計算になります。このように多くの認知症の方がおられるにもかかわらず、現状では有効な治療法がなく、確実な予防法も見つかっていません。この認知症のうちの 7 割を占めるものが『**アルツハイマー型認知症**』と呼ばれるもので、大脳で記憶に関係する『**海馬**』と呼ばれる領域の萎縮が MRI 検査で確認することができます。海馬の萎縮はアルツハイマー型認知症を発症する数年前から始まっているとされており、萎縮を認めた時点で、生活習慣を変えたり、運動トレーニングを行うことで、認知症の発症を予防することができるとも言われています。下図に脳を垂直に切断した MRI 画像を示します。図にもありますように、海馬は左右に存在し、正常では周囲の脳と接触しています。しかし、アルツハイマー型認知症の場合には小さくしぼんでしまいます。また、認知症が重症になりますと、大脳全体の萎縮も進み、脳溝と呼ばれる脳の表面のしわが広がっていきます。

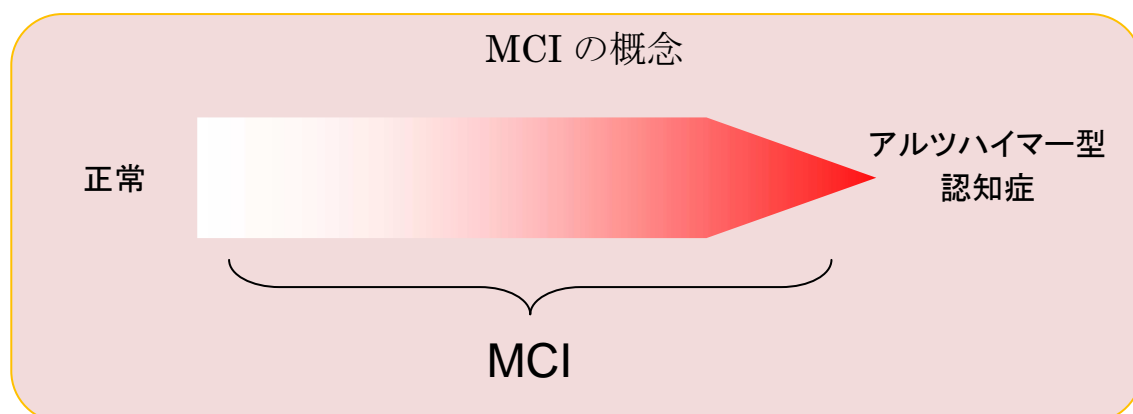
MRI で見られる海馬の萎縮



脳溝：いわゆる脳の表面のしわで、誰にでも同じようにしわができていますが、年齢をとることとでこのしわが広がります。特に重症アルツハイマー病では極端に広がります。

2. MCI について

MCI (mild cognition impairment)とは、下の図に概念を示しますが、正常でもなく、認知症でもない状態を示しており、きちんとした日本語訳も診断基準も存在していません。65 歳以上の高齢者人口の約 13%に見られるとされており、アルツハイマー型認知症の予備軍として考えられています。MCI の状態からアルツハイマー型認知症に移行してゆく方は、1 年間で 10%程度存在し、MCI の状態からアルツハイマー型認知症の治療を行うことを推奨する医師もいます。しかしながら、MCI の状態からかならずアルツハイマー型認知症に悪化するわけではなく、MCI のままで生涯を終えられる方もあります。その経過の違いの原因は不明ですが、MCI の状態でも海馬の萎縮が出現している場合は、アルツハイマー型認知症につながる確率が高いと考えられています。MCI の状態で治療を行うことが、現在では唯一のアルツハイマー型認知症の予防法かもしれません。



3. 海馬の萎縮の数量的評価

アルツハイマー型認知症の発症と海馬の萎縮が関係していることは理解していただけたと思いますが、MCI の状態で海馬の萎縮を客観的に診断し、将来のアルツハイマー型認知症発症の危険性を予測できるようになりました。VSRAD (ブイエスラッド) と呼ばれる MRI 画像解析ソフトを利用すると、海馬のみならず大脳全体の萎縮を客観的に数字で評価することが出来ます。VSRAD は MRI で撮影した画像を利用して、正常例と検査対象者の脳を比較して萎縮の度合いを数字で表します。実際の VSRAD の値と萎縮に対する評価を表に示します。

VSRAD の値	萎縮に対する評価	アルツハイマー型認知症のリスク
0～1	ほとんど問題なし	心配なし
1～2	やや萎縮が出現している	経過観察が必要
2～3	かなり萎縮が強い	アルツハイマー型認知症が疑われる
3 以上	きわめて萎縮が強い	認知症の治療が必要

このように、VSRAD では海馬の萎縮を数字で客観的に評価できますので、知能検査の結果でアルツハイマー型認知症や MCI が疑われる方の客観的評価として利用されています。

4. 彦根中央病院での取り組み

彦根中央病院では、今年 1 月から、毎週金曜日の 1 時から 3 時の時間帯に『認知症外来』を始めました(担当:山田恭造医師 認知症サポート医、脳神経外科専門医)。この外来では、知能テストや医師の診察、そしてこれまでに述べてきた VSRAD 等を使用し、アルツハイマー型認知症の方の診断、治療のみならず、MCI とと思われる方の発症予防を目的とした治療も行っています。また、認知症の方の生活をサポートするための公的な援助についての相談も行っております。なんとなくもの忘れが増え、認知症のことが心配になられたら、お気軽に受診してください。上記の時間内でしたら、受診のための予約は必要ありません。

次のページに認知症に関する簡単なチェックリストがありますのでご覧ください。

5. あなたは大丈夫？

以下の質問は「認知症の人と家族の会」の会員の経験から作成されたものです。医師が作成したものよりわかりやすいかと思います。一読されて思い当たるところが多ければ、ぜひ、受診を行ってください。他の病気と同じように認知症も『**早期発見・早期治療**』が大切です。

●もの忘れがひどい

1 今切ったばかりなのに、電話の相手の名前を忘れる

2 同じことを何度も言う・問う・する

3 しまい忘れ置き忘れが増え、いつも探し物をしている

4 財布・通帳・衣類などを盗まれたと人を疑う

●判断・理解力が衰える

5 料理・片付け・計算・運転などのミスが多くなった

6 新しいことが覚えられない

7 話のつじつまが合わない

8 テレビ番組の内容が理解できなくなった

●時間・場所がわからない

9 約束の日時や場所を間違えるようになった

10 慣れた道でも迷うことがある

●人柄が変わる

11 些細なことで怒りっぽくなった

12 周りへの気づかいがなくなり頑固になった

13 自分の失敗を人のせいにする

14 「このごろ様子がおかしい」と周囲から言われた



●不安感が強い

15 ひとりになると怖がったり寂しがったりする

16 外出時、持ち物を何度も確かめる

17 「頭が変になった」と本人が訴える

●意欲がなくなる

18 下着を替えず、身だしなみを構わなくなった

19 趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった

20 ふさぎ込んで何をするのも億劫がりいやがる



上記の質問やイラストは  公益社団法人 **認知症の人と家族の会** のホームページから転載させていただきました。

<http://www.alzheimer.or.jp/>